

OTC医薬品 将来ビジョン

OTC医薬品分科会 武藤正樹

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会が描く OTC医薬品将来ビジョン

～Japan Quality再構築・レジリエンス強化・グローバルヘルスへの挑戦～

2025年 2030年 2035年 2040年

OTC

OTCシェア率G7最下位
(シェア率6.9%)

OTCシェア率の拡大

OTCシェア率G7トップ

Keyword

- OTCシェア率G7最下位
- セルフメディケーションの促進

成長エンジン

- スイッチOTC化推進
- セルメ税制対象品目拡大
- OTCデータベース構築準備
- セルフメディケーションの普及促進

Keyword

- シェア率の拡大
- セルフメディケーションの浸透

成長エンジン

- スイッチOTC品目150品目
- OTCデータベースの確立
- 全てのOTCをセルメ税制対象へ
- セルフメディケーションの浸透

Keyword

- OTCシェア率G7トップ
- セルフメディケーションの拡大

成長エンジン

- OTCシェア率G7トップ
- セルフメディケーションの確立

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会OTC医薬品分科会

- 分科会長 武藤正樹
- 分科会長代理 岩月進
- 分科会委員
 - 村田正弘
 - 小山信彌
 - 佐々木忠徳
 - 折井孝男
 - 四方田千佳子
 - 川上純一
 - 西澤健司
 - 中村克徳
 - 義若博人
 - 磯部総一郎
 - 狭間研至
 - 池本多賀正
- 事務局 細川修平
- 2023年11月設立



- 第18回日本ジェネリック医薬品バイオシミラー学会
- 2024年5月14日(名古屋)

OTC医薬品分科会のテーマ

- OTC医薬品の普及促進
 - シェア率の拡大のためのロードマップの作成
- スイッチOTCラグの解消
- OTCデータベースの構築
- スイッチOTCの生活習慣病薬への拡大
- 保険者によるスイッチOTCの普及支援

OTC分科会の6つのビジョン

- **ビジョン1**: OTCシェア率2040年G7トップ
- **ビジョン2**: 2030年にスイッチOTC150品目
- **ビジョン3**: 2030年までにOTCデータベース
- **ビジョン4**: 2030年までに生活習慣病OTC
- **ビジョン5**: すべてのOTCをセルフケア税制の対象
- **ビジョン6**: セルフケア・セルフメディケーションの確立

ビジョン1 OTCシェア率 2040年G7トップを目指す

G7

Group of Seven



Japan



France



America



England



Italy

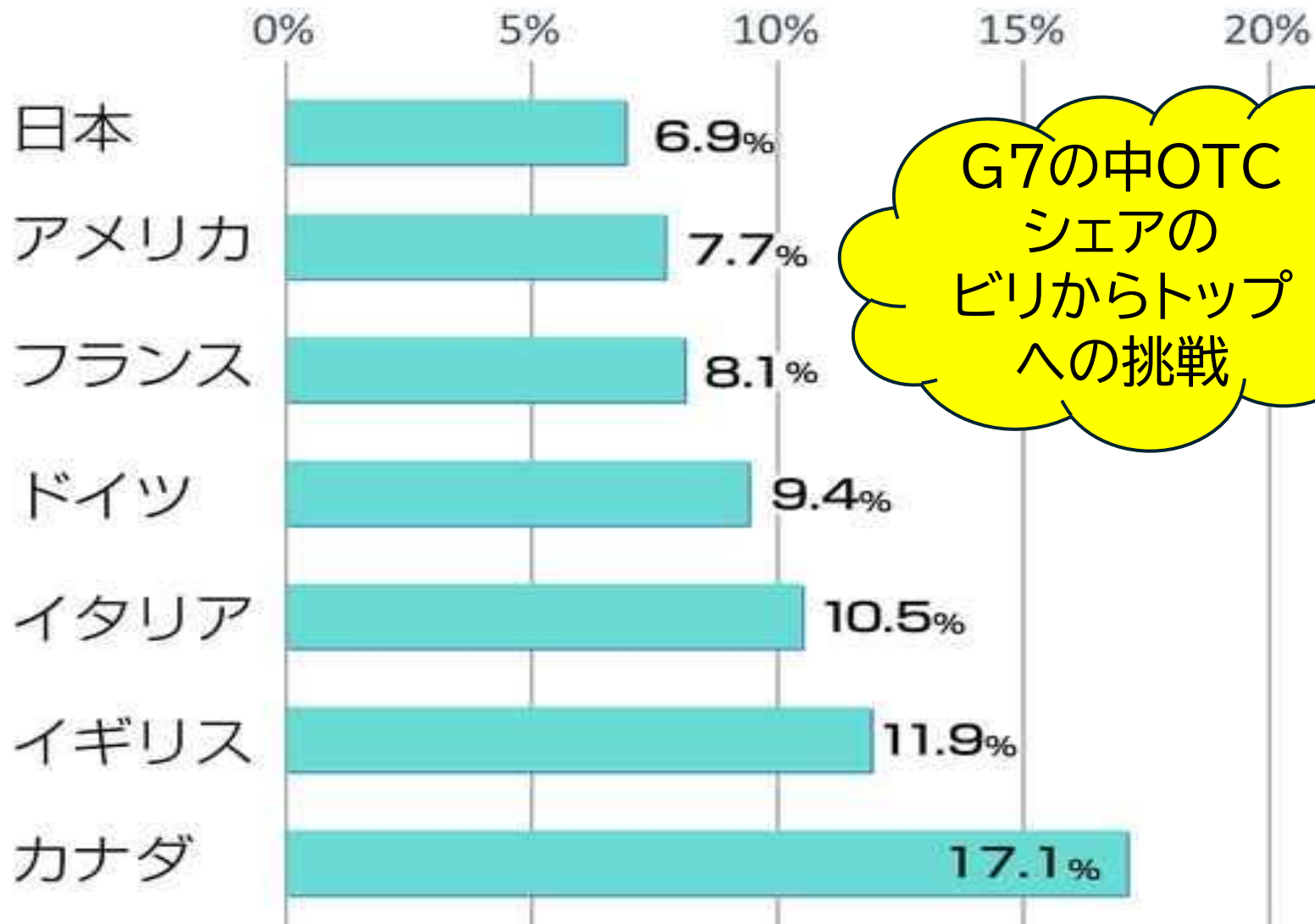


Canada



Germany

全医薬品に占めるOTC医薬品の割合

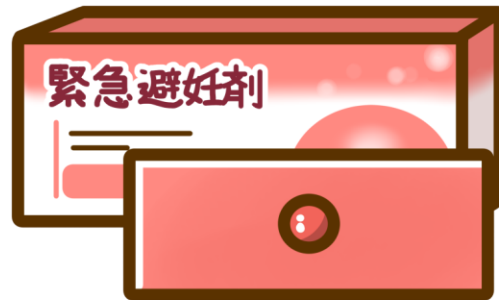


G7の中OTC
シェアの
ビリからトップ
への挑戦

ビジョン2 2030年にスイッチ OTC品目150を目指す



スイッチ・ラグ問題



スイッチOTC医薬品98成分 (2025年5月30日)

- 1. アシクロビル 2. アシタザノラスト 3. L-アスパラギン酸カルシウム 4. アゼラスチン 5. アモロルフィン 6. アルミノプロフェン 7. アンブロキシール 8. イコサペント酸エチル 9. イソコナゾール 10. イソチペンジル (歯痛・歯槽膿漏薬に限る。) 11. イトプリド 12. イブプロフェン 13. イブプロフェンピコノール 14. インドメタシン 15. ウフェナマート 16. エキサラミド 17. エコナゾール 18. エバスチン 19. エピナスチン 20. エプラジノン 21. エメダスチン 22. オキシコナゾール 23. オキシメタゾリン 24. オキセサゼイン 25. カルボシステイン 26. クロトリマゾール (腔カンジダ治療薬に限る。) 27. クロモグリク酸 28. ケトチフェン 29. ケトプロフェン 30. ゲファルナート 31. シクロピロクスオラミン 32. ジクロフェナク 33. シメチジン 34. ジメモルファン 35. スルコナゾール 36. 精製ヒアルロン酸ナトリウム 37. セチリジン 38. セトラキサート 39. ソイステロール 40. ソファルコン 41. チオコナゾール 42. チキジウム 43. チメピジウム 44. テプレノン 45. テルビナフィン 46. トラニラスト 47. トリアムシノロンアセトニド 48. トリメブチン 49. トルシクラート 50. トロキシピド 51. ナプロキセン 52. ニコチン 53. ニザチジン 54. ネチコナゾール 55. ピコスルファート 56. ビソキサチン酢酸エステル 57. ビダラビン 58. ヒドロコルチゾン酪酸エステル 59. ビホナゾール 60. ピレンゼピン 61. ピロキシカム 62. ファモチジン 63. フェキソフェナジン 64. フェキソフェナジン塩酸塩・塩酸プソイドエフェドリン (花粉、ハウスダスト (室内塵) などによる鼻のアレルギー症状を緩和することを目的とするものに限る。) 65. フェルビナク 66. ブチルスコポラミン 67. フッ化ナトリウム (洗口液に限る。) 68. ブテナフィン 69. プラノプロフェン 70. フラボキサート 71. フルチカゾンプロピオン酸エステル 72. フルニソリド 73. フルルビプロフェン 74. プレドニゾン吉草酸エステル 75. プロピベリン 76. ブロムヘキシン 77. ベクロメタゾンプロピオン酸エステル 78. ベタメタゾン吉草酸エステル 79. ヘプロニカート 80. ベポタスチン 81. ペミロラストカリウム 82. ポリエチレンスルホン酸 83. ポリエンホスファチジルコリン 84. ポリカルボフィルカルシウム 85. ミコナゾール 86. メキタジン 87. メコバラミン 88. メロキシカム 89. モメタゾンフランカルボン酸エステル (点鼻剤に限る。) 90. ユビデカレノン 91. ヨウ素・ポリビニルアルコール (目の殺菌消毒薬に限る。) 92. ラニチジン 93. ラノコナゾール 94. ラベプラゾール 95. ロキサチジン酢酸エステル 96. ロキソプロフェン 97. ロペラミド 98. ロラタジン

日本が抱える“スイッチラグ”問題

- 2016年から2021年の間にスイッチOTC医薬品の候補として厚生労働省へ要望が提出された成分の中で、厚生労働省のサイト内に検討結果が示されていない医薬品は10成分。
- 海外におけるスイッチOTC化と日本におけるスイッチOTC化を比較すると、承認されるまでに**時間的に大きな差がある**（＝“スイッチラグ”）

“スイッチラグ”が生じている薬効

薬効	成分名	国内承認年	世界最初のスイッチ		スイッチ・ラグ	承認国数 (40国中)	医療用 開発国	薬効	成分名	国内承認年	世界最初のスイッチ		スイッチ・ラグ	承認国数 (40国中)	医療用 開発国	
			年	国名							年	国名				
PPI	オメプラゾール	未承認	1999	スウェーデン	>21年	30	スウェーデン	抗ヘルペス薬	アシクロビル	2007	1992	ドイツ フィンランド ニュージーランド	15年	35	米国	
	ランソプラゾール	未承認	2004	スウェーデン	>16年	6	日本		発毛剤	ミノキシジル	1999	1993	デンマーク	6年	38	米国
	ラベプラゾール	未承認	2010	オーストラリア	>10年	2	日本		腫カンジダ症	ミコナゾール	2008	1983	フランス	25年	19	ベルギー
片頭痛薬	スマトリアタン	未承認	2006	英国	>14年	5	英国	クロトリマゾール		2011	1983	フランス	28年	33	ドイツ	
	ゾルミトリアタン	未承認	2009	ニュージーランド	>11年	3	英国	禁煙補助	ニコチンガム	2001	1988	オーストラリア	13年	37	スウェーデン	
	リザトリアタン	未承認	2010	ニュージーランド	>10年	2	米国	鼻炎ステロイド	フルチカゾン	2019	2002	英国 アイルランド	17年	19	英国	
	ナラトリアタン	未承認	2006	ドイツ	>14年	1	英国	抗アレルギー薬	フェキソフェナジン	2012	2007	ブルガリア	5年	9	米国	
緊急避妊薬	レボノルゲストレル	未承認	1999	フランス メキシコ	>21年	29	フランス		ロラタジン	2017	1988	カナダ	29年	35	米国	

(出典) 日本OTC医薬品協会,内閣府 規制改革推進会議 医療・介護ワーキング・グループ公開資料「[医療用医薬品から一般用医薬品への転用（スイッチOTC化）の促進](#)」,2020年2月13日



2025年6月2日



2025年8月5日



2025年8月1日



海外2カ国以上でスイッチOTC承認された成分（例）

約50成分

日本でOTC承認があるものと未承認のものとの比較

青字：日本でOTC承認あり

赤字：日本でスイッチ未承認

胃酸関連疾患用薬 スクラルファート ファモチジン ニザチジン オメプラゾール エソメプラゾール ランソプラゾール ラベプラゾール	鎮痛薬 ジヒドロコデイン パラセタモール+ジヒドロコデイン スマトリプタン ソルミトリプタン リザトリプタン ナラトリプタン	全身用抗ヒスタミン薬 クレマスチン メクロジン エメダスチンフマル酸塩 エピナスチン塩酸塩 フェキソフェナジン エバスチン ロラタジン ケトチフェン ジフェンヒドラミン クロルフェニラミン トリプロリジン プロメタジン トリペレンナミン ジフェニルピラリン カルビノキサミン デスロラタジン レボセチリジン シプロヘプタジン ピラスチン オキサトミド	咳・感冒用製剤 ブロムヘキシン カルボシステイン アンプロキシソール デキストロメトルファン グアイフェネシン コデイン アセチルシステイン ベンプロペリン	抗にきび薬 イソプロピルメチルフェノール レゾルシン エリスロマイシン(外用) アダパレン 過酸化ベンゾイル*
鼻用製剤 プソイドエフェドリン フェニレフリン ナファゾリン フルチカゾン フルニソリド(点鼻) レボカバスタチン イプラトロピウム臭化物塩 トラマゾリン ブデソニド(点鼻) モメタゾン(点鼻)	機能的胃腸疾患用薬 ブチルスコポラミン臭化物塩 ジメチコン スコポラミン ジサイクロミン ドンペリドン プロパンテリン メトクロプラミド	皮膚科用抗生物質等 アシクロビル(外用) リゾチーム塩酸塩 ネオマイシン硫酸塩 クロルテトラサイクリン(外用) テトラサイクリン スルファジアジン銀(軟膏) メトロニダゾール ムピロシン(外用) ファムシクロビル	駆虫薬 ピルビニウムパモ酸塩 ピランテル メベンダゾール	便秘薬 マグネシウム酸化物塩 ラクツロース マクロゴール ラクチトール
泌尿器科用薬 フラボキサート塩酸塩 シルデナフィル タダラフィル オキシブチニン	抗炎症・抗リウマチ薬 インドメタシン ナプロキセン フルルビプロフェン(トP-ナ) ジクロフェナク ケトプロフェン メフェナム酸	副腎皮質ステロイド皮膚科用製剤 ヒドロコルチゾン(外用) プレドニゾロン クロベタゾン酪酸エステル(外用) アルクロメタゾン(外用)	麻酔薬 アミノ安息香酸エチル ジブカイン オキセサゼイン プロピトカイン オキシプロカイン	閉塞性気道障害用薬 テオフィリン サルブタモール
				性ホルモン等 レボノルゲストレル エストリオール(腔用)
				関節・筋肉痛用局所製剤 ピロキシカム(外用) フェルビナク(外用)

出典：AESGP <https://otc.aesgp.eu/#by-parameter>

* 医療用製剤の再審査報告が未公表の成分

(注) 同一薬効群で既にスイッチOTC化されているものがある場合等、スイッチ化のニーズが必ずしも高くない場合もあり、そもそも企業がスイッチ化の開発申請を行わない場合もあることに留意が必要。

2030年までにスイッチOTC
成分数150以上を目指す



ビジョン3 OTCデータベース の完成



OTC医薬品と医療用医薬品の統合データベース
を2030年までに完成

(参考) 一般用医薬品の販売の場面において、薬剤の重複を回避した事例

「共有すべき事例」では、医薬品の販売の場面において同種同効薬の重複服用を未然に防いだ事例を1事例公開している。参考として下記に紹介する。

共有すべき事例 (事例番号：000000031498)**事例の内容等****(事例の内容)**

バイアスピリン錠100mgを内服している人が、一般用医薬品のバファリンの購入時に「バイアスピリン錠100mgと重複するのでやめといた方がよいです」と伝え、販売しなかった。

(背景・要因)

この人は潰瘍まで起こしたことはないもののタケプロンも飲んでいて胃が弱いと判断した。

(薬局が考えた改善策)

他所の薬局だと知らなかっただろうし、本人も飲んでいる薬の説明をしなかっただろうから、そのまま販売されていたかもしれない。自分の飲んでいる薬は一般用医薬品を購入する時にも説明して、飲んでよいか判断してもらうことが重要であることを、一般の人に知ってもらう必要がある。お薬手帳の携帯と提示を習慣づけられると良い。

事例のポイント

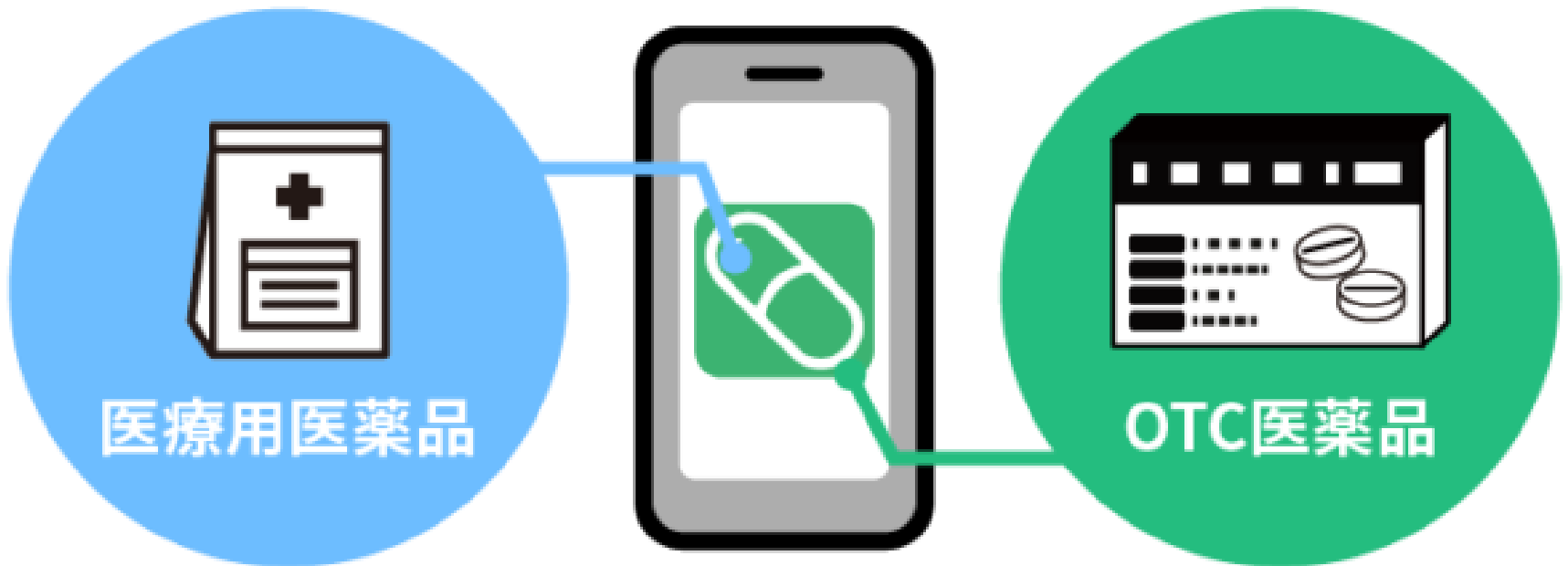
- 一般用医薬品の購入が容易になるにつれて、気軽に考える人が多くなり、処方薬との重複や飲み合わせという重要な点に関心が薄くなる恐れがある。
- 患者に対する一般用医薬品の危険性の啓発や、一般用医薬品についても、服用したらお薬手帳に必ず記載するよう啓発することが必要である。

一般用医薬品と
医療用医薬品の
重複投与
オーバードース

OTC医薬品情報フォーマット (日本医薬品情報学会)

- ・ 購入日：2017年8月○日
- ・ 使用者：○○○○（購入者）
- ・ 商品名：クラリチンEX（14錠）
- ・ 成分：ロラタジン 10mg
- ・ その他：前回服用後、特に有害事象は認められなかった（2017年3月○日販売）。
- ・ 販売した薬局等：
 - △△薬局
 - 県◆◆市□□***
 - TEL：●●-○○○-XXXX
 - 販売薬剤師：薬師太郎

統合型電子お薬手帳



2030年までに統合型データベースの完成を！

ビジョン4 生活習慣病のスイッチOTCの導入



3. 医師の管理下で状態が安定しており、対処方法が確定していて自己管理が可能な症状に対する医薬品

例：降圧薬（ACE阻害薬、等）*注1、コレステロール低下薬*注2

⇒ 一定の間隔で、医師が状態をチェックする

4. 疾病の発症抑制、健康づくりへの寄与が期待できる医薬品

例：糖吸収抑制薬*注3

5. 無侵襲または低侵襲の簡易迅速自己検査薬 等

- ① 自ら健康状態を把握するための検査薬
- ② 受診勧奨を行うためのスクリーニング用検査薬
- ③ 検査薬とその検査結果に対処する医薬品

例：感染症簡易迅速抗原検査薬＋抗微生物薬

(旧) スイッチOTC評価システム 日本薬学会選定成分

*注1：平成20,22（再）年度（アラセプリル、等） *注2：平成21,22（再）年度（コレスチミド）

*注3：平成20,22（再）年度（ボグリボース、等）

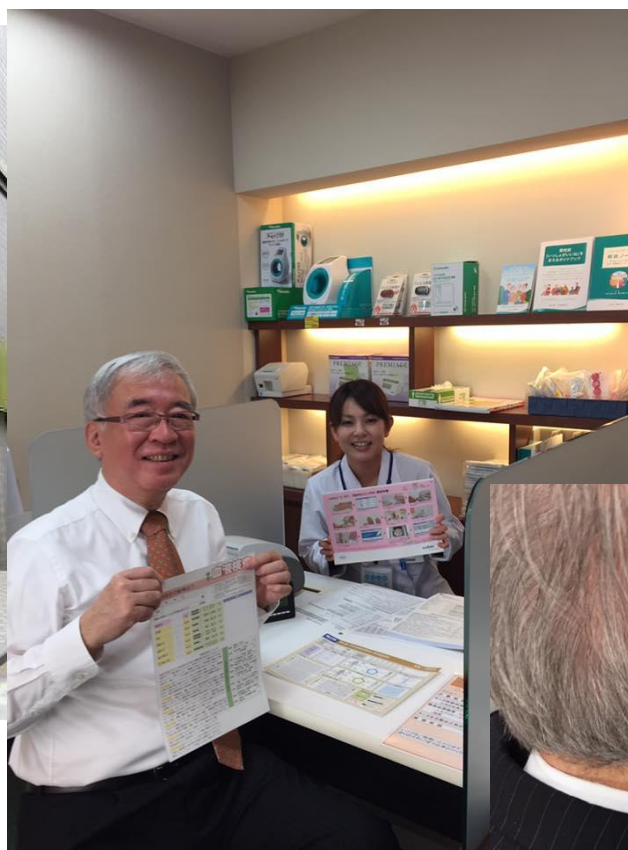
アトルバスタチンも スイッチOTC化しては？

衣笠病院と横須賀薬局の間で
アトロバスタチン単剤、
90日3回リフィルの臨床研究を実施中

リフィル+検査してはどうか？



日本調剤麻布十番薬局（港区）



ヘモグロビンA1Cとコレステロール値
がコバスの6分でわかる！ 超便利！

衣笠病院の門前の横須賀薬局 と90日リフィルの臨床研究

- スタチン単剤の患者さん
を対象
- 90日リフィル3回のうち2回を横須賀薬局で、コバスを使った自己採血によるコレステロール値をモニター
- 栄養士による栄養指導
- トレーシングレポートで処方医にフィードバック
- 患者待ち時間、自己負担の軽減等の経済評価を行う
- 長期リフィルの安全性評価を行う
- 長期リフィルは医師と薬剤師による共通プロトコールによる協働薬物治療管理と同義



アトルバスタチン単剤 長期リフィル結果

2024年から12名の患者エントリー、270日長期リフィル完
遂患者10名(うち4名は540日超)、
男性2名(平均年齢56歳)、女性8名(平均年齢68歳)、脱落1
名(男性)のみ途中LDL-C高値で受診勧奨
現在はアムロジピン単剤も実施中

長期リフィルで安全性を
確認して生活習慣病のス
イッチOTC化を2030年
までに目指そう！

ビジョン5 すべてのOTC をセルメ税制対象品目へ

現状ではセルメ税制対象医薬品は
スイッチOTCふくめ150品目
この品目を2030年までに全OTC医薬
品に拡大する

セルフメディケーション（自主服薬）推進のためのスイッチOTC薬控除（医療費控除の特例）の創設

(所得税、個人住民税)

1. 大綱の概要

適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、**健康の維持増進及び疾病の予防への取組として一定の取組（※1）を行う個人が、平成29（2017）年1月1日から令和3（2021）年12月31日までの間に、自己又は自己と生計を一にする配偶者その他の親族に係る一定のスイッチOTC医薬品（※2）の購入の対価を支払った場合**において、その年中に支払ったその対価の額の合計額が**1万2千円を超えるときは**、その超える部分の金額（その金額が8万8千円を超える場合には、8万8千円）について、その年分の**総所得金額等から控除する**。

（※1）特定健康診査、予防接種、定期健康診断、健康診査、がん検診

（※2）要指導医薬品及び一般用医薬品のうち、医療用から転用された医薬品
(類似の医療用医薬品が医療保険給付の対象外のものを除く。)

(注) 本特例の適用を受ける場合には、現行の医療費控除の適用を受けることができない。

※セルフメディケーションは、世界保健機関(WHO)において、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義されている。

2. 制度の内容

■対象となる医薬品（医療用から転用された医薬品：スイッチOTC医薬品）について

○ スイッチOTC医薬品：

－ 対象となる医薬品の薬効の例：かぜ薬、胃腸薬、鼻炎用内服薬、水虫・たむし用薬、肩こり・腰痛・関節痛の貼付薬

(注) 上記薬効の医薬品の全てが対象となるわけではない

本特例措置を利用する時のイメージ

○ 課税所得400万円の者が、対象医薬品を年間20,000円購入した場合（生計を一にする配偶者その他の親族の分も含む）

20,000円
(対象医薬品の購入金額)

12,000円
(下限額)

○ 8,000円が課税所得から控除される

(対象医薬品の購入金額: 20,000円 - 下限額: 12,000円 = 8,000円)

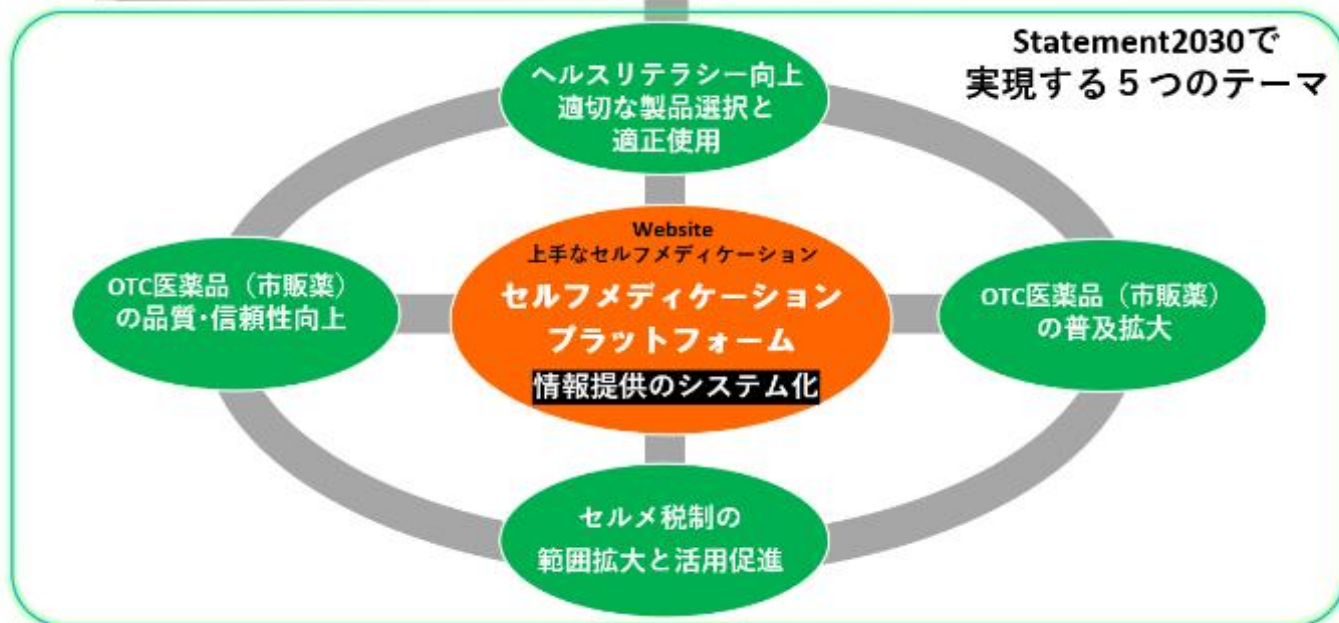
○ 減税額

・所得税: 1,600円の減税効果(控除額: 8,000円 × 所得税率: 20% = 1,600円)

・個人住民税: 800円の減税効果(控除額: 8,000円 × 個人住民税率: 10% = 800円)

ビジョン6 セルフケア・セルフ メデイケーションの確立

Website: 「上手なセルフメデイケーション」



OTC医薬品にスイッチする

OTC医薬品がニッポンの医療を救う！

- **日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 OTC医薬品分科会編**
- 武藤正樹、安中健、磯部総一郎、森澤篤史、泉澤勝弘、川瀬一郎、上田彩、印南一路、中山和弘、尾崎治夫、岩月進、飯島裕也、大島秀康、池本多賀正
- B5判176ページ
- 2000円+税
- 薬事日報社
- 2025年10月発刊g



目指そう
OTC医薬品
将来ビジョン

シンポジウム2

新規薬効群のスイッチOTC医薬品・検査薬を
生み出すための方策(提言1を受けて)

座長 武藤正樹



岩手県立科学技術博物館(盛岡市)



中尊寺(盛岡市)



浄土ヶ浜(盛岡市)



盛岡城跡公園(盛岡市)



阿波橋から見た岩手山(盛岡市)



学会テーマ
**ジェネリック医薬品・バイオシミラーの
在るべき姿を考える**

第19回学術大会 日本ジェネリック医薬品・ バイオシミラー学会

会期 2025年 **10.11** (土) **12** (日)

会場 **いわて県民情報交流センター
アイーナ** 〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1

大会長 **工藤 賢三** 岩手医科大学薬学部 臨床薬学講座 教授・
附属病院 薬剤部長

OTC医薬品分科会
シンポジウムを開催

<https://www.jsgsm19.com>

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会学術大会 OTC医薬品分科会シンポジウム

(2025年11月11日盛岡市)



2025年度OTC医薬品分科会提言 セルフケア・セルフメディケーション骨太方針達成のための提言

提言 1：生活習慣病薬のスイッチOTC化の推進

- 高血圧、脂質異常症、高尿酸血症、糖尿病などの生活習慣病で、症状が安定し継続的に対象疾患で受診しており、長期間にわたり同一薬剤での治療を受けている患者に対し、医師の定期的な診察を前提に、同一成分・同一用量のOTC医薬品を選択可能とする制度設計を進める。
- 生活習慣病領域のOTC化推進には、日本版CDTM（Collaborative Drug Therapy Management）を基盤とした医師・薬剤師連携体制の構築が適切である。すなわち、併発疾患のリスク評価やヘルスリテラシーレベル（疾患の理解、服薬アドヒアランスなど）を考慮した適正使用・管理プロトコルを策定し、医師、薬剤師、製薬業界、そして患者自身の4者連携による日本版CDTMモデルを導入してはどうか。プロトコルには、医師による6か月から1年に一度程度の定期的な診察を最低限組み込んでいく。
- 保険者も含む、各医療ステークホルダー間での意見収集、調整して現実的な枠組みを提案していく。生活習慣病の予防や悪化防止などを目的とした生活習慣の改善プログラムなどの施策も枠組みの中に組み込んでいく。政府には制度構築に向け、分野毎の適正使用プロトコル策定が円滑に進むための各ステークホルダー間協議の場作りなどの仕組み作りと、それを実行するために必要な薬局での服薬支援・医師との連携および医師による指導・支援体制に対するインセンティブの創設を求めたい。
- 高血圧、脂質異常症、高尿酸血症、糖尿病などは、相互に関連性が高く併発することが多く、また、生活習慣の改善プログラムなど、予防、悪化防止施策も共通しており症状が安定していれば、併発している患者も視野に入れるべきである。また、並行して検査医療機器、検査薬（穿刺血での複数検査項目のマルチ検査機器・検査薬の開発も含む）のOTC化も促進し、患者自身が体調をモニタリングし管理するための基盤整備を進める。
- この取り組みは受診時間を十分確保できない、近くに適切な医療機関がないなどの理由により治療の継続を断念させないために有用な選択肢となり得る。

生活習慣病の スイッチOTCの導入



3. 医師の管理下で状態が安定しており、対処方法が確定していて自己管理が可能な症状に対する医薬品

例：降圧薬（ACE阻害薬、等）*注1、コレステロール低下薬*注2

⇒ 一定の間隔で、医師が状態をチェックする

4. 疾病の発症抑制、健康づくりへの寄与が期待できる医薬品

例：糖吸収抑制薬*注3

5. 無侵襲または低侵襲の簡易迅速自己検査薬 等

- ① 自ら健康状態を把握するための検査薬
- ② 受診勧奨を行うためのスクリーニング用検査薬
- ③ 検査薬とその検査結果に対処する医薬品

例：感染症簡易迅速抗原検査薬＋抗微生物薬

(旧) スイッチOTC評価システム 日本薬学会選定成分

*注1：平成20,22（再）年度（アラセプリル、等） *注2：平成21,22（再）年度（コレステミド）

*注3：平成20,22（再）年度（ボグリボース、等）

生活習慣病薬のスイッチOTC化の 前に検証すべきこと

生活習慣病薬の
医師・薬剤師の長期リフィルの安全性

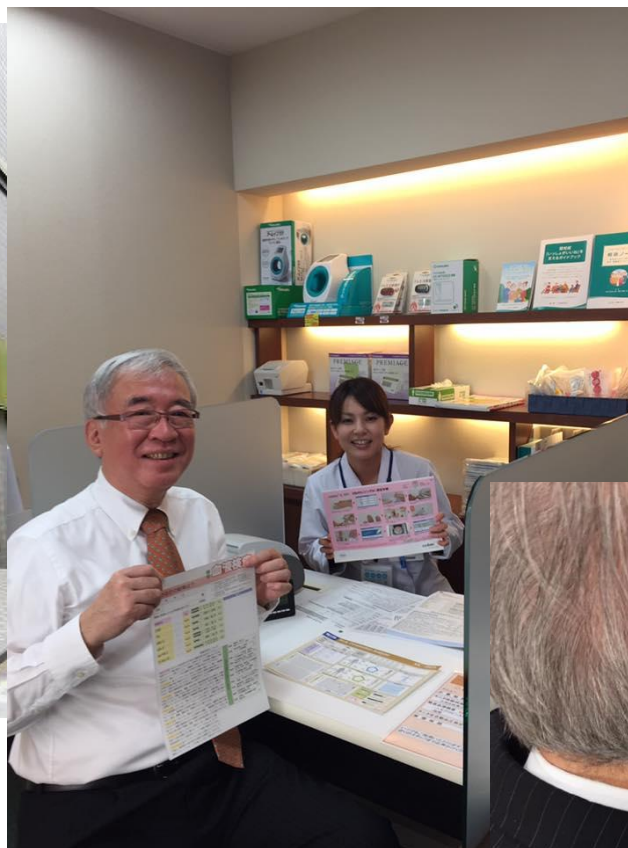
アトルバスタチンの 長期リフィル

衣笠病院（横須賀市）と横須賀薬局の間で
アトロバスタチン単剤、
90日3回リフィルの臨床研究を実施中

リフィル+検査の実施



日本調剤麻布十番薬局（港区）



ヘモグロビンA1Cとコレステロール値
がコバスで6分でわかる！ 超便利！

衣笠病院の門前の横須賀薬局 と90日リフィルの臨床研究

- スタチン単剤の患者さん
を対象
- 90日リフィル3回のうち2回を横須賀薬局で、コバスを使った自己採血によるコレステロール値をモニター
- 栄養士による栄養指導
- トレーシングレポートで処方医にフィードバック
- 患者待ち時間、自己負担の軽減等の経済評価を行う
- 長期リフィルの安全性評価を行う
- 長期リフィルは医師と薬剤師による共通プロトコールによる協働薬物治療管理と同義



アトルバスタチン単剤 長期リフィル結果

2024年から12名の患者エントリー、270日長期リフィル完
遂患者10名(うち4名は540日超)、
男性2名(平均年齢56歳)、女性8名(平均年齢68歳)、脱落1
名(男性)のみ途中LDL-C高値で受診勧奨
現在はアムロジピン単剤も実施中

長期リフィルで安全性を
確認して生活習慣病のス
イッチOTC化を2030年
までに目指そう！